

# 見てわかる 金融力調査

第2回

金融経済に関する知識

金融広報中央委員会では、2012年9月に「金融力調査」の結果を公表しました。この調査は、日本における18歳以上の個人のお金や金融に関する知識や行動の特色を把握するために実施したものです。当委員会では、調査結果を活かして、世の中の人々が必要としている金融知識の普及や金融教育の支援を行っていきたいと考えています。

このコーナーでは、「金融力調査」の結果の一部を紹介し、エッセンスを分かりやすく説明します。

今回は、「金融経済に関する知識面の特徴」についてです。

金利の計算の質問では、単利（1年間の金利の計算）についての正答率は8割近い水準となっています。一方、複利（5年間の金利の計算）についての正答率は3割にとどまっています。

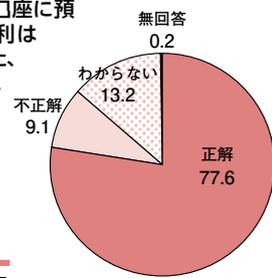
問

100万円を預貯金口座に預け入れました。金利は2%だとします。また、この口座には誰もこれ以上お金を預け入れないとします。1年後、口座の残高はいくらになりますか。

選択肢

- ・100万円・102万円
- ・110万円・その他・わからない

正解：102万円



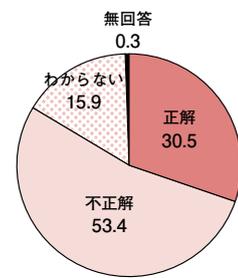
問

では、5年後にはこの口座の残高はいくらになりますか。

選択肢

- ・110万円より多い
- ・ちょうど110万円
- ・110万円より少ない
- ・その他・わからない

正解：110万円より多い



リターンとリスクの関係についての質問では、正答率が7割近い水準となっていますが、「わからない」との回答も目立っています。また、リスクの分散の効用についての質問では、「わからない」との回答が目立ち、正答率も5割を切っています。

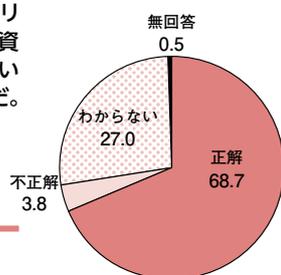
問

平均以上の高いリターンのある投資は、平均以上の高いリスクがあるものだ。

選択肢

- ・正しい
- ・間違っている
- ・わからない

正解：正しい



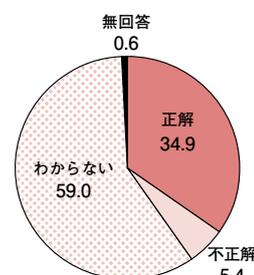
問

一社の株を買うことは、通常、株式投資信託を買うよりも安全な投資である。

選択肢

- ・正しい
- ・間違っている
- ・わからない

正解：間違っている



豊かな暮らしのためには、金融経済について正しく知っておくことが大切です。金融や経済に関しても、難しそうだとおぼえずに関心を持ちたいものです。